

基本方針

基礎調査の整理

前項の基礎調査について整理した。

「上位計画」

- 市民の交流活動を促進する拠点であり、かつ賑わいと活力のある都市空間の創出を図る空間である。
- 災害に強い安全なまちづくりを図るため、防災機能の整備に努める。特に緊急通行車両用の駐車場など、災害応急対応のために必要なスペースとする。
- 洪水時に浸水の可能性があり、配慮した計画とする。
- 十分な量の駐車場や憩いの広場の整備が必要
- 周辺の景観への配慮や環境負荷の低減に努める。特にEco-DRRグリーンインフラの技術を導入する。

「歴史・文化」

- 計画地周辺には、華やかな祭りの文化や、美濃菊、繊維などの産業、円空をはじめとした歴史・文化的資産が多く残る。
- 計画地周辺は、古くから商店街が形成されるなど、地域の賑わいの中心エリアであったが、現在はスポンジ化が進む。
- 日本を代表する建築家のひとりである坂倉準三の生誕地であり、また本計画地は坂倉が設計した旧羽島市庁舎が建っていた歴史的な意味のある土地である。

「現状」

- 計画地周辺は木造建築が密集したエリアであり、火災などの災害が懸念される。
- 新庁舎よりも低い地盤となっており、浸水の恐れがある。
- 公園などの広場や河川や森など自然を感じられる場が少ない。
- 敷地を南北に水路が通っているが、クランクが多く、また容量も足りていないため、オーバーフローの恐れがある。
- 市役所の駐車場内の人・車の動線や高低差について再検討する必要がある。

計画地の位置づけ

上記の整理から、本計画地のあるべき姿を位置づける。

本計画地は、新庁舎と一体となって、「使いやすく」・「安全」で・「活力や憩いを創出」する空間とする。
同時に、
洪水や火災などの災害時にも安全に活動できる「防災拠点」として整備する。

整備方針（5つの軸）の設定

上記位置づけより、本計画地の整備に必要と思われる整備方針を「5つの軸」として設定した。また、整備方針は「竹鼻自治委員会の要望」も踏まえて計画した。

軸 1

駐車場機能

市民などの来庁者が安心して利用できる十分な容量の駐車場を確保する。



軸 2

防災拠点機能

災害時にフレキシブルに利用できるよう、様々な場面を想定して計画を行う。



軸 3

水路・調整池機能

浸水しないよう、現状の水路の改修や調整池機能の整備などの検討を行う。



軸 4

憩いの場所機能

日常的に市民の憩いの場として利用できる自然豊かな広場を整備する。



軸 5

歴史継承機能

かつてここにあった旧市庁舎の名残りを感じられる空間として整備する。

